

25 春日新田小学校

認め合い進んで学び合う、学年学級づくり

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	地域を愛し、自立と共生ができ、未来を創る子ども (郷土愛、自立、共生、社会力の育成)
我が校の目指す子ども像	思いやりの心を持ち、協力し合う子ども



小中一貫教育の具体的な取組	
我が校の取組	中学校区の取組
2つのプロジェクトによる具体的な取組 ◎主体的な問題解決のある授業づくり ○基礎的・基本的な学習内容の定着 ○家庭学習習慣の育成（主体性） ○豊かな心を育む道德教育の充実 ○よりより人間関係をつくる取組 ○仲間意識の向上を図る取組 ○体力づくりの指導と場の充実 ○実態把握と合理的配慮の充実	◎キャリア教育を中核とした一貫教育の推進 ・「郷土愛」の育成を重点取組としたキャリア教育の実践 ・中学校区共通評価項目による教員評価と分析 ・キャリアパスポートの改善と活用 ○人権感覚を磨く共通取り組みの実践 ・講演 大湾昇様(児童生徒)、石井眞澄・千晶様(教職員) ・いじめ見逃しゼロスクール集会 ○授業研究交流会の実施、家庭学習の充実 ・スタディ&アウトメディアウィークの取組 ・「学習の約束」の周知と徹底
成果○と課題■	成果○と課題■
○「かわり方スキル」を中心とし、SSTを取り入れたり、クラス会議を行ったりしながら安定した人間関係の中で学び合う姿が見られる。 ○学力分析やQUアンケートによる実態把握に努め、それを生かして学級づくりや授業づくりを行っている。 ■自立した学習者を育てるために、学習内容に加え学習方法についても指導を深める。	○キャリア教育の実践記録を情報交換することで各校の取組を把握することができた。 ○集合型の研修を実施し、中学校区の教職員のつながりを深めることができた。 ○小中一貫した様々な上記共通取組の中で、児童生徒共に確実に成長した。 ■各校の独自性を生かしながら学校間連携を進め、9年間を見通した実践を、さらに進める必要がある。「郷土愛」の育成について、取組を工夫していく。

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容	
直東学園（直江津東中学校区の各小中学校）で推進している小中一貫したキャリア教育や自校の特色を生かした教育活動をベースとして、夢と志、郷土愛を育む教育活動を教育課程に位置付ける。年間を通じて、視覚的カリキュラム表を修正しながら、目指す子ども像の実現に努める。	生活科	「わたしたちの野菜畑」（2年）
	総合	「つばさコスモスプロジェクト！ ～地域を元気にしよう～」(4年)
	総合	「えがこう 私の未来予想図 ～プロフェッショナルに学ぶ仕事の流儀～」(6年)
学校運営協議会の評価 適正規模になり児童は落ち着いて学習に向かっている。学校評価は児童、保護者アンケートの項目を見直したことで、児童は自分を振り返り、保護者は子どもをよく見たりするようになってよい傾向にある。今後の質的な向上（自主的な学び）を目指した学校運営に賛成、協力したい。	夢・志チャレンジスクール事業の取組は、目指す子ども像の実現に有効であった	
	○	当てはまる
		どちらかという当てはまる
		どちらかという当てはまらない
		当てはまらない

# スクールマネジメント実践報告書

## 学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	1人	保護者	2人	住民	5人	その他	2人	合計	10人
学校運営協議会の回数 ※( )は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1学期	1回( )	2学期	1回( )	3学期	1回( )	合計3回( )	
	中学校区合同 ※中学校区で同数にする	1学期	1回( )	2学期	回( )	3学期	1回(1)	合計2回(1)	
活動の内容					成果○と課題■				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、保護者、学識経験者によるそれぞれの立場から学校の取組を評価していただき、基本構想の承認や活動への支援をいただいた。</li> <li>・地域資源を生かした教育活動を展開するため、それぞれの立場から支援できることを協議し、教育活動に活かした。</li> <li>・授業の様子を参観していただき、児童の様子や学習の仕方、全校の雰囲気を感じ取っていただいた。</li> </ul>					<p>○授業を参観し、児童の学習態度や学びの仕方を見て、全校が落ち着いていると評価していただき、取組の成果を感じていただいた。学校評価に対して意見をいただき、評価項目の見直しを図った結果、課題の焦点化のための児童の実態把握ができた。</p> <p>■生活科や総合的な学習の時間において地域とのかかわりが増えつつある。継続して協力や支援をお願いするための連携方法やシステムを構築する必要がある。</p>				

総括
<p>学校運営協議会から、新しい形へと変化しつつある学校教育に、諮問機関として常にアドバイスや協力を得ることができた。各行事の際には、町内会長や安全見守り隊の方にも児童の活躍を見ていただき、学校に関心を寄せていただいた。また、登下校の児童の見守りを毎日行ったり、学校の様子に合わせた地域行事（PTA 親子レクなども含む）の実施に配慮をいただいたりした。地域や保護者とつながりながら安心して教育活動ができた。</p>

〈活動写真〉



○野菜を栽培し、様子を観察した。「きずな野菜市場」を開き、収穫した野菜を地域で販売して喜んでいただいた。



○コスモスを見てもらうために、ポスターをつくったり、コンサートを行ったりして、多くの方に喜んでいただいた。



○校区の様々な職場を見学し、プロフェッショナルから、専門性の高いお話を聞くことができた。